

いえ じ がわ 家地川



春は花咲く家地川。堰堤は桜の名所。とりわけ『さくら祭り』の日は各種のイベントが催され、四万十町の観光シーズン幕開けの役を果たしている。この桜は水利権を持つ四国電力(株)が景観に華をと、そして地域住民に対する贈り物であったという。



家地川ダム(佐賀取水堰)

家地川ダム(佐賀取水堰)は当時の住友電力会社に よつて起工され、昭和12年に完成している。せき止められた水はトンネルで佐賀発電所に送られており、発電に使われた水は別水系の伊与木川に流れ再び元の四万十川にもどらない。それが議論の種となり、前回(平成13年)の水利権更新時には、官民挙げてのダム撤去運動が起った。最終的には、水利権更新期間は30年から10年に短縮、放水量も国のガイドラインを大きく上回る水量が四万十川を流れることになった。

大中合わせて6つの絵馬。武者絵の2つは6尺×4尺と堂々たる物。氏神様(河内神社)はよそからこの地に引越して来たという。『まさぶき』という屋根であったが、平成16

年の台風で被害にあい今は銅板ぶき。境内は山城跡という事で平らな所がありチャンバラをして悪がきどもが遊ぶには格好の場所。

NHKの人気番組『プリンプリン物語』で、登場した人形の作家で有名な友永詔三さん(造形作家)もこのお宮を縄張りしていた1人で、親戚のおばちゃんと言うには「刀差して走り回り回っていた」・・・と。新聞などでは高知県出身と紹介されているが、この地がふる里である。

枝を伸ばして天をつく

雄しき姿けやきの木

家地川小学校の校歌にもある櫟(こけし)である。樹高25m、幹回り3.6m、樹齢130年。竹ぼうきを逆さにしたような姿で大きく空に伸びている。この樹の植えられた所は元々田んぼだったようで「こんなに大きくなったのは田んぼの栄養をすったからでしょう」と地元の人々の解説を聞きながらしばらく見上げた。校庭には近づく運動会のため白線でトラックが描かれ、残暑はまだあるもののダム湖を渡る風に秋を感じた1日だった。



枝を伸ばして天をつく

町の人口
(9月1日現在)

(男性)	9,466人
(女性)	10,545人
(計)	20,011人
(世帯数)	8,829世帯

平均年齢
(9月1日現在)

(男性)	49.3歳
(女性)	54.3歳
(全体)	51.9歳

四万十川流域の
水質状況
四万十川具同地点

項目	単位	基準値	7月14日
水温	℃	-	28.6
pH		6.5~8.5	7.8
BOD	mg/l	1.0以下	<0.5
SS	mg/l	25以下	2
DO	mg/l	7.5以上	8.8
大腸菌群数	MPN/100ml	50以下	2800

注意1)測定値は全て速報値です。注意2)基準値は年平均値を対象とした数値です。(国土交通省中村河川国道事務所提供)

●四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>

※広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)